

職員の皆さんへ

10月27日に薨去された三笠宮崇仁親王殿下の御訃報に接しまして、誠に悲しみの念に堪えません。11月4日御喪儀当日は、市民の皆さんと共に慎んで哀悼の意を表します。

さて、いよいよ11月、今年も残すところ二か月となりました。

先月は年間を通して行われる催事の中でも「ひらどツデーウォーク」や「平戸くんち城下秋まつり」など比較的規模の大きいイベントが週末ごとに開かれ、さらに本市にとって初めての実施となった「ねんりんピック長崎2016 ゲートボール交流大会」をはじめ「センサマイクロシンポジウム」や「ウォータープロジェクトンマッピング」など画期的な取組みもありましたが、いずれも降雨に悩まされながらの悪条件の中、担当者各位をはじめボランティアとして奔走された職員各位に心からお労いの言葉を申し上げます。中には休みも取れずに疲労困憊になり家族サービスもままならない方もいたのではないかと心配しています。

しっかり休みをとって明日への英気を養ってください。

こうした皆さんのご努力は、必ずや市民各位の目に、頼もしく且つ快く映ったことと思います。

また決算特別委員会も深夜にまで及ぶご審議だったようですが、議員各位の熱心な質問に真剣にかつ真摯に向き合い前年度の事業についてのご理解をいただくことは、なかなか難しい局面もあったことかと思えます。

ご指摘いただいた事項については、次の施策へとしっかり反映させていただきようお願いします。大変ご苦勞様でした。

早いもので私も市長二期目の任期を残すところあと1年という節目を迎えています。タイミングを同じくして平戸市総合計画も平成29年度で最終年度を迎えることになり、これから次の総合計画策定に向けての重要な時期であるとともに助走期間として過去の検証を踏まえながら、さらに新たな展望を築いていかなければなりません。現在、アンケートなどを通して市民の皆様の声を幅広くお聞きし満足度などの指標に照らし合わせながら、次の総合計画策定につなげていきたいと思っています。

特に本市の基幹産業である農業や漁業の生産現場では、例えばアゴ出汁の全国ブランド化が成功したことを受けて、大手の調味料メーカーが買い付けに走ったことで一時期、通常の数倍近い高値で取引があったことや、また今年は台風が直接東北や北海道方面を襲ったことなどから農作物などが全国的に品薄状態に陥り、本市生産の野菜も高値取引になるなど、このところ定着しつつある肉用牛子牛価格の高値安定と相まって、嬉しい悲鳴が聞こえ及んでいます。

ただしこれらの喜ばしい現象も自然が相手の産業であることに変わりはなく、次年度以降に同様なことが期待されるかどうかは保証できません。そのためには、これまで以上に消費者や取引先との信頼を強めるためのブランド戦略や商品価値を高めるた

めの六次化などの付加価値戦略などが、しっかりと裏づけされなければなりません。そしてそうした部門にこそ新たな設備投資や雇用創出のチャンスが秘められていると確信しています。

さらに平戸市の名前がテレビなどで取り上げられることは、もはや珍しいことではなくなっている現状において、次なる戦略としては「シティ・プロモーション」というカテゴリーをあらゆる部門において意識することが大きな前提となってくる時代になりました。

つまりそれは、ヒトやモノが個別に屹立して独立した魅力を発信するのではなく、相互に連携し平面から空間的へと魅力を増幅させ、平戸市全体の雰囲気やそこに生活する人たちの生き様として演出していかなければ「選ばれる自治体」にはなりえないということです。

もっと分かりやすく言うと、「所得がいくら」とか「労働時間や条件がどうだ」とかいう単純な数値ではなく、「働き方そのもの」であり「暮らしていく価値」こそが、次世代の生活者の貴重な判断基準、ライフスタイルになるという考え方です。

私たちが抱える深刻かつ壮大な課題は「人口減少」といかにして向き合うかですが、まさにこの観点に立ち、「平戸市の魅力や可能性が、次代を担う若い人材の評価にたえるかどうか」を耕していくことだと思います。従って「シティ・プロモーション」という切り口は、教育や福祉行政、建設やまちづくり、治安や防災などにも大きく関わってきますので、全ての行政職員が意識しなければなりません。

そしてもっと重要なのは、行政という機関は、「市民の思いや理念を具体的な形に変えることができる役所」だということです。方向性が見出せずに苦悩する現場や壁にぶつかってもなお乗り越えようと努力する立場の方、希望を抱きながらチャンスをつかめずに焦っている人材などに寄り添い、幅広く的確な情報をキャッチし、使い勝手のいい状況で制度設計や予算化を進めていくことで、様々な課題解決のお手伝いができる立場が公務員だと思います。「できない理由」よりも「どうやったらできるか」という視点に立って仕事をしてください。そうした姿勢や意気込みを市民は真剣な眼差しで見つめています。

週明けには臨時議会とそしていよいよ年末の12月定例会市議会の準備が始まります。それぞれ責任ある立場において、審議していただく議案を取りまとめると同時に、前年踏襲主義に固執せず新たな着想や理念を描き、「シティ・プロモーション」をいかに演出していくかという観点も胸に刻みつけながら、日常業務に専念していただきたいと思っています。

引き続き員皆様のご努力に期待します。

平成28年11月1日

平戸市長 黒田成彦